

経済・金融
フラッシュユーロ圏消費者物価(25年9月)
—概ね物価目標に沿った推移が継続

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:総合指数が上昇、コア指数は横ばい

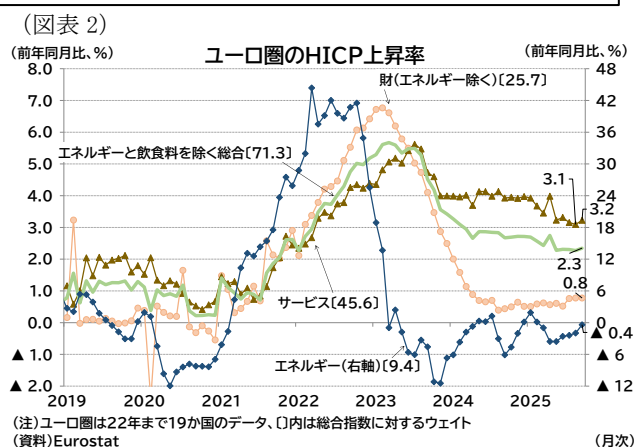
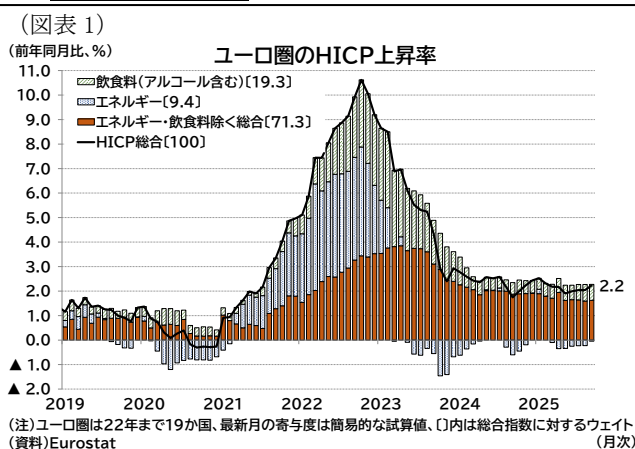
10月1日、欧州委員会統計局(Eurostat)は9月のユーロ圏のHICP(Harmonized Indices of Consumer Prices:EU基準の消費者物価指数)速報値を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数】

- ・前年同月比は2.2%、市場予想¹(2.2%)と一致、前月(2.0%)から上昇した(図表1)
- ・前月比は0.1%、予想(0.1%)と一致、前月(0.1%)と同じだった

【総合指数からエネルギーと飲食料を除いた指数²】

- ・前年同月比は2.3%、予想(2.3%)と一致、前月(2.3%)と同じだった(図表2)
- ・前月比は0.1%、前月(0.3%)から低下した



2. 結果の詳細:2%物価目標と整合的な推移であることは変わらず

9月のHICP上昇率³(前年同月比)は全体で2.2%となり、8月(2.0%)から上昇したが、概ねECBの2%物価目標に沿った水準で推移している。「コア部分(=エネルギーと飲食料を除く総合)」は2.3%と8月(2.3%)から横ばい推移となった。

以下、詳細を「コア部分」「エネルギー」「飲食料(アルコール含む)」の3つに分けて見ていく。

まず、コア部分である「エネルギーと飲食料を除く総合」の内訳を見ると、「エネルギーを除く財

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

² 日本の消費者物価指数のコアコアCPI、米国の消費者物価指数のコアCPIに相当するもの。ただし、ユーロ圏の指数はアルコール飲料も除いており、日本のコアコアCPIや米国のコアCPIとは若干定義が異なる。

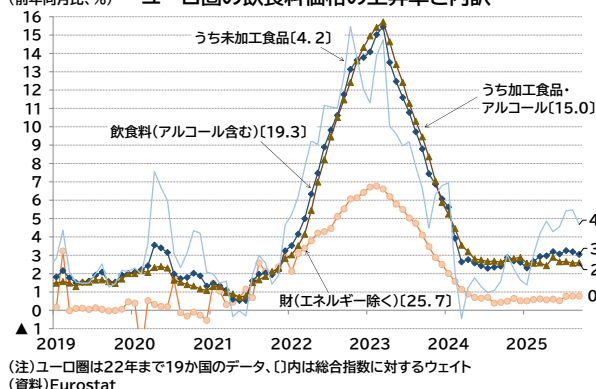
³ 23年からはユーロ圏20か国のデータ、22年までは19か国のデータ(以降も特に断りがない限り同様)。

（飲食料も除く）」が7月0.8%→8月0.8%→9月0.8%、「サービス」（エネルギーを除く）が7月3.2%→8月3.1%→9月3.2%となり、財インフレ、サービスインフレともに概ね横ばいでの推移が続いている。前年同月比寄与度は、「財」が0.18%ポイント程度、「サービス」が1.41%ポイント程度と見られる。コア部分では総じて横ばい圏の動きが続いている。

コア以外の部分では「エネルギー」が前年同月比で7月▲2.4%→8月▲2.0%→9月▲0.4%となり、マイナス幅が大幅に縮小した。エネルギーの前年同月比寄与度は▲0.05%ポイント程度（8月は▲0.19%ポイント）で8月の総合指数伸び率の上昇は、エネルギー伸び率のマイナス幅が縮小したことが主因と言える（前掲図表2）。

（図表3）

ユーロ圏の飲食料価格の上昇率と内訳

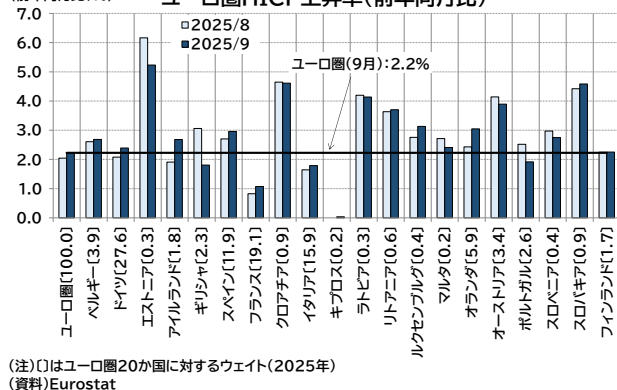


「飲食料（アルコール含む）」は、前年同月比で3.0%（8月3.2%）と低下（図表3）、内訳を見ると、飲食料のうち加工食品の伸び率は2.6%（8月2.6%）と横ばい、未加工食品は4.7%（8月5.5%）と低下した。

物価上昇の勢いをECBが公表する季節調整済系列で確認すると（図表4）、3か月移動平均後の3か月前比年率で総合指数が2.5%（8月2.0%）、コアが2.3%（8月2.4%）、エネルギーを除く財が1.5%（8月1.1%）、サービスが2.8%（8月3.0%）、飲食料が3.6%（8月3.4%）となった。飲食料インフレの物価上昇の勢いがやや強めだが、総合指数やコアの物価上昇の勢いは概ね2%目標と整合的な水準で推移している。

（図表5）

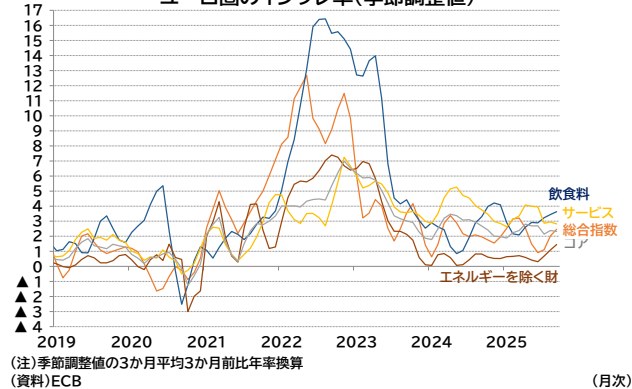
ユーロ圏HICP上昇率（前年同月比）



国別のHICP上昇率は、前年同月比で20か国中、上昇したのは12か国、残りの8か国は低下した（図表5）。また、物価目標の2%以下となったのは5か国だった。前月比では20か国中10か国がプラス、10か国がマイナスの伸び率となった（図表6）。

（図表4）

ユーロ圏のインフレ率（季節調整済）



（図表6）

ユーロ圏HICP上昇率（前月比）

